

単元名 曲に合った歌い方

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想とフレーズなど音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能や、互いの声や音を聴きながら楽器で副次的旋律を演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) フレーズの反復や変化、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫しどのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 曲想を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070206_001

【教材名】森の子もり歌（歌唱 器楽） 雪のおどり（歌唱 器楽）（P. 44～P. 47）

【準備等】範唱CD，リコーダー，トライアングル，すず，鉄琴，木琴，鍵盤ハーモニカ

| 学 習 活 動 | 留 意 事 項 など |
|--|--|
| <p>1 「森の子もり歌」を情景を思い浮かべて歌う。</p> <p>★曲に合った歌い方を見つけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 「森の子もり歌」の気分を感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 範唱を聴きながら旋律に慣れ、歌詞唱する。 旋律の特徴を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> 旋律の特徴について意見を出し合い、軽やかな部分となめらかな部分について、手を動かすなどして表現する 挿画を参考に、歌詞の表わす情景を思い浮かべて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> 森の様子、お母さん鳥や子どもの鳥の様子について、思い浮かべたことを出し合う。 話し合ったことを基に「ピラロルラ」の部分を工夫する。 「よふけの森にきこえる」の部分を、「ピラロルラ」と対照させて歌い方を考える。 「ひなたちを～」のところの歌い方も考え、曲全体を歌う。 <p>2 「森の子もり歌」を合唱奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「森の子もり歌」を、フレーズに合った歌い方で歌う。 <ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を振り返り、それぞれのフレーズの歌い方や出だしを工夫して歌う。 リズムや音程に注意して歌う。 リコーダーの副旋律を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> リコーダーの旋律を階名唱する。 最初の休符に気を付けてフレーズを感じながら吹く。 「森の子もり歌」を合唱奏する。 <ul style="list-style-type: none"> 歌とリコーダーのグループに分かれて合わせる。 曲に合ったリコーダーの強さや音色を考えて演奏する <p>3 「雪のおどり」の輪唱をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「雪のおどり」の曲の気分を感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 同じ音型の繰り返しを感じながら歌う。 「こんこん」「ずんずん」「ふれふれ」などの言葉の響きや反復の面白さを感じながら歌う。 輪唱する。 <ul style="list-style-type: none"> 二つのグループに分かれ、2小節遅れで輪唱する。 互いの声が聞こえるように、歌声に気を付ける。 グループを交換して歌う。 伴奏を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> 楽器を持たず、各リズムを言葉や動きで確認する。 楽器で演奏する。 楽器を交替しながら、演奏してみる。 歌と合わせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容を基に、曲全体の流れをつかめるようにする。 旋律の流れに合う、やさしく無理のない声で歌うようにしていく。 「ピラロルラ」と「よふけの森にきこえる」の部分を手を動かしながら歌わせる。 「ひなたちを～」のところも、旋律の流れを捉えるようにさせる。 【共通事項】反復 変化 【評】曲想とフレーズなど音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりを捉える活動を通して「知識」を評価する。 前時に学習したフレーズの特徴や旋律の流れについて確認して歌うようにする。 休符やリズムに気を付けて演奏させる。 数名のグループごとに発表してもよい。 【共通事項】フレーズ 音色 【評】互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う活動や、互いの声や音を聴きながら楽器で副次的な旋律を演奏する活動を通して「技能」を評価する。 「レラ」「ファレ」「ラソファミレ」などの繰り返し（反復）に気付かせる。 木琴のオスティナート（一定の音型を反復する）で伴奏して歌い、次の学習内容である音楽づくりにつなぐ。 言葉や動きを使うとリズムを定着させやすい トライアングル…「ずーん ずーん」両手の人差し指を合わせる 鈴…「しんしんしんしん」手拍子 木琴「つーもれ つーもれ」両手で膝を打つ 鉄琴…階名で歌いながら、手で机を打つ。 鉄琴は使う音に打つ順番のシールを貼るとよい。 【共通事項】音色 音楽の縦と横との関係 音の重なり 【評】フレーズの反復や変化、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ |

- 4 「雪のおどり」を伴奏に合わせて輪唱する。
- 「雪のおどり」を輪唱する。
 - ・前時を思い出し、斉唱してから輪唱する。
 - ・楽器を担当するグループを決め、その中で担当する楽器を分担する。残りのグループは輪唱する。
 - レミファソラレの音をもとに旋律を演奏する。
 - ・リコーダーや鍵盤ハーモニカなど、演奏する楽器を選ぶ。
 - ・4分音符のリズムで、伴奏に合わせて即興的に4小節の旋律をつくって演奏する。
 - ・リレーしながら発表する。

取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・グループを交替し、全員が楽器を演奏できるようにする。
- ・楽器の加わり方を工夫して前奏をつくってもよい。
- ・繰り返す伴奏に合わせ、一人ずつ旋律を即興的にリレーする。
- ・旋律も拍にのって演奏させる。

【評】曲想を生かした表現活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】